

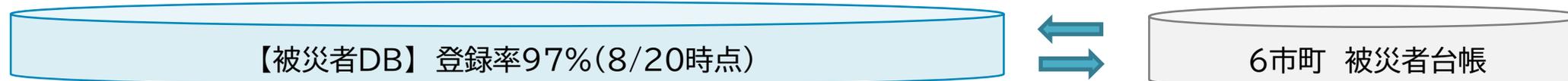


■ 被災者情報の把握に向けた取組



- ✓ 能登半島地震においては、甚大な被害により、**被災者は**、指定避難所だけでなく、**様々な場所へ避難**（**被災地外への広域避難**含む）

- ✓ 市町や県等が**被災者にかかる必要な情報を共有**するため、「**被災者データベース**」を構築し、被災者を支援



● 今後に向けた取組

デジタル田園都市国家構想交付金Type S

標準の整備
(ルール・機能)

被災者情報把握の**全国モデルとなる標準ルールや機能をR6年度中に整備**

平時から災害時までフェーズフリーで、データを手間をかけずに収集する仕組みづくり

➤ **マイナンバーカード等の日常利用に向けてサービスや施設の確保が重要**

➔ **公民館等に加え、平時から人・情報が集まる民間拠点と連携**



<民間拠点の例>



入浴施設



郵便局



道の駅



自動車学校（宿舎）

情報収集

■ アーリーハーベストプロジェクトの能登での展開



- ✓ 能登は震災からの復旧・復興に加え、半島という地理的特性や高齢化・人口減少が進展する課題先進地域
 - 創造的復興を進める能登は、全国の人口減少地域での実装に向けた実証を行う場として最適

■ 劣悪な通信環境の抜本的改善



- ✓ 能登をはじめとする全国の山間部等の人口減少地域においては、通信の不安定さが大きな課題

● 通信は、道路と同様に住民生活の基盤

地方でのデジタルライフラインの実装には、通信基盤の強靱化に加え、通信環境の改善（大容量、高速、低遅延）が急務